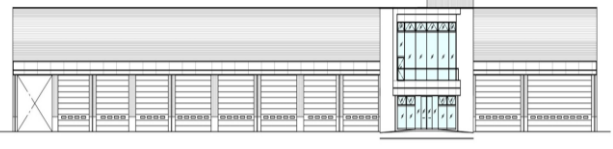


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三谷興業株式会社 整備工場	階数	地上2階
建設地	愛知県東海市名和町一ノ下1番、2番1、17番3	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,700時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年6月8日
敷地面積	11,014 m ²	作成者	小原 健太郎
建築面積	2,675 m ²	確認日	2021年6月8日
延床面積	3,111 m ²	確認者	小原 健太郎



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%) ☆☆☆☆☆ (60%) ☆☆☆☆☆ (80%) ☆☆☆☆☆ (100%) ☆☆☆☆☆ (100%超)

標準計算

①参照値	92 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	46	90%
③上記+②以外の	46	90%
④上記+	46	90%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.6)

音環境	3.0
温熱環境	2.0
光・視環境	3.0
空気質環境	3.0

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.4)

機能性	3.5
耐用性	3.0
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 2.1)

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.3)

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.8
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.1)

水資源	3.4
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 2.9)

地球温暖化	3.3
地域環境	2.6
周辺環境	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px; color: green;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px; color: green;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	②	階高が3.9m以上 壁長さ比率=0.076 > 0.1	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40		3.0	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31			
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17				
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.66	3.0	5.0	0.23		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.83	3.0	2.8	0.44		-	2.8
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.1
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節水型器具の採用	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	3.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	軽量鉄骨の乾式壁工法により、躯体と仕上材を容易に分別可能	3.0	4.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	
1	消火剤			-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50		-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率90%	-	3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮				0.3	2.6	0.33		-	2.6
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	独自	自転車置き場を確保	-	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00		-	
2	振動	独自		-	-	-		-	
3	悪臭			-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-		-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)三谷興業株式会社 整備工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 執務空間の室内環境の推進
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 快適に業務が行える環境づくり、仕上材、空調、照度にした。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 執務空間はOA床とし、レイアウト変更に対応できるようになっている。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 庇の設置により敷地内利用者の暑熱環境に配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握している。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 水資源確保のため節水型便器を使用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害抑制として、照度・輝度を与える範囲の適正な設置を行う。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。